



朝十小だより

～来がい 居がい 学びがいのある学校～

発行日 令和元年6月1日
朝霞市立朝霞第十小学校
〒351-0023
朝霞市大字溝沼828番地の1
TEL 048-469-5443
在籍児童数 680名



ONE TEAM

校長 金子二郎

北門脇の梅の実が熟し、カレンダーも6月となりました。早いもので1学期も丁度半ばとなりました。今年は例年になく気温が大きく変化しており、体調を崩された方も少なくないようです。まもなく不順な天候が続く頃となります。保護者や地域の皆様におかれましては、お体に十分お気をつけくださいますようお願いいたします。

さて、先月は本校の高学年児童が大活躍の5月となりました。15日(水)には東京学芸大学の依頼により、香港教育大学スタディツアー2019の一環として大学生18名と大学職員4名が来校しました。将来教壇に立つことを夢見て香港と日本で学ぶ大学生たち。一方、おもてなしをする5年生は、大型連休による厳しい日程の中で、精一杯準備して当日を迎えました。ウェルカムセレモニーや授業に全力で取り組む児童や本校職員の姿に大変感動し、十小を去る時にも「いつかまた会いたい。」と名残を惜しんでいました。



16日(木)と17日(金)には、6年生が日光方面への修学旅行を行いました。実行委員を中心に児童が主体的に取り組み、多くを学ぶことができました。宿舎では靴揃えや食器の後片付けの仕方など、生活態度を褒めていただくことが度々ありました。「他の小学校のお手本にしたいので写真を撮らせてほしい。」との申し出を受けました。これまで生活アンケートへの協力などを通じて、ご家庭でも生活についてお声掛けいただきてきたおかげと心から感謝申し上げます。その他にも来校されるゲストティーチャーや地域の皆様からお褒めいただく事が多くなりました。5年生と6年生の活躍は本当に頼もしいものです。高学年としての意識の高さを感じられます。同時に、子供たちの誠意が相手の方に伝わっていることがわかります。高学年には、十小を代表しているという誇りと責任を感じている児童が少なくありません。どうすればみんなの生活が良くなるかを自分で考え、進んで行動しようとする意欲を持った児童がリーダーとなり、クラスのため、学年のため、そして学校のために頑張ろうとする意識が少しずつ共有されていきます。それが集団の質を高めることにつながります。さらに、その意識の高さを相手が感じ取ることができるようにするためには、「表現する」というもう一段階高い技術が必要となります。相手に自分の考えを適切に伝えることの素晴らしさと難しさを改めて感じた5月でもありました。



7月



8月



9月

十小 みんなの元気の素 2 インビクタス 負けざる者たち (カト・イ・ストウド/監督製作)

今回も映画を紹介します。1995年のラグビーワールドカップで大方の予想を覆して南アフリカ共和国が優勝を飾るまでを描いた作品です。それまでのアパルトヘイト施策から大きく転換し、南アフリカは新たな歴史を歩みはじめたばかりでした。国際競技連盟であるIRB主催大会から除名されていた南アフリカが、初出場で初優勝を遂げるまでには、人々の葛藤や様々なドラマがあったことがこの作品を通してわかります。モーガン・フリーマンが演じるネルソン・マンデラ大統領の台詞は示唆に富んだものが少なくありません。マンデラ大統領の言葉で次第に多くの人々が目覚め、人種の壁を乗り越えて一つの目標達成に向けて団結します。彼は「新しい国」のために何をすべきかを最優先で考えましたが、国をクラスや学校、チームや地域など自分の所属する集団に置き換えてこの映画を観ると、誰もが共感できるに違いありません。

人を大切にする集団は必ず好循環を生み出し、強くなるだけでなく人々に愛され憧れの集団になるのだと思う (五郎丸歩)

